

肢体不自由教育研究部会

1 研究主題

確かな実態把握に基づいた、一人一人の多様な教育的ニーズに応じた授業づくり

2 主な活動および関連事業

月	肢体不自由教育研究部会事業およびその他の関連事業
5月24日(金)	九州地区肢体不自由教育研究協議会役員会及び総会(佐世保市)
6月6日(木)	第1回理事会・代議員会
7月26日(金)	県特研連研究大会(日向東臼杵ブロック主管)
8月1日(木)	第23回 肢体不自由教育研究大会及び第2回理事会・代議員会
10月16日(水) ～18日(金)	第56回九州地区肢体不自由教育研究協議会 長崎大会
11月13日(水) ～15日(金)	第65回全国肢体不自由教育研究協議会 青森大会
1月10日(金)	第3回理事会・代議員会 部会誌第24号発行

3 成果と課題

(1) 研究大会

「第23回肢体不自由教育研究大会」

午前中は(株)沖ワークウェルよりシニアアドバイザーの津田 貴 氏を講師に招き、「社会と繋ぐ～肢体不自由教育の充実に向けて～」という演題で、講演を行った。何が仕事になるかわからないこれからの新しい時代に向けて、御社での業務内容や遠隔勤務の形態、ワークウェルコミュニケーションの紹介、特別支援学校との遠隔職場実習を通じた連携についての実践等を紹介していただいた。これからの教育支援およびキャリア教育において先進的な取組は大いに参考となり、たくさんの情報を得ることができた。参加者からは「障がいのある人たちの可能性は無限大だと感じた」、「肢体不自由教育の今後の進路選択の幅が広がったように感じる」、「働くという考え方が変わる講演だった」等の感想が寄せられるなど、好評であった。

午後はテーマを「肢体不自由教育の未来～これから何ができるか～」と設定し、7つの小グループに分かれ、情報交換会を行った。「できる経験を積み重ねて『～したい』という気持ちを引き出していきたい」、「色々な選択ができるような提示、好きなところを見つけ、伸ばしていくことが必要」、「働きたいという気持ちを引き伸ばしていきたい」というような内容が取り上げられ、各グループとも盛んに意見交換や実践の紹介等が行われた。また、障がいの重度重複が進む中で、修学旅行の実施に向けた課題や日々の学習の悩みなども挙げられていた。

(2) 理事会・代議員会

3回の理事会・代議員会を開き、両校の情報交換や課題等について意見交換を行うことができた。また、九州地区肢体不自由教育研究大会や全国肢体不自由教育研究協議会の報告を受け、肢体不自由教育の現状や今後の動きについて深めることが出来た。これらを踏まえて本部会の取り組むべき課題について整理するとともに、次年度の研究大会に向けて準備を進め、職員の資質向上を目指していきたい。